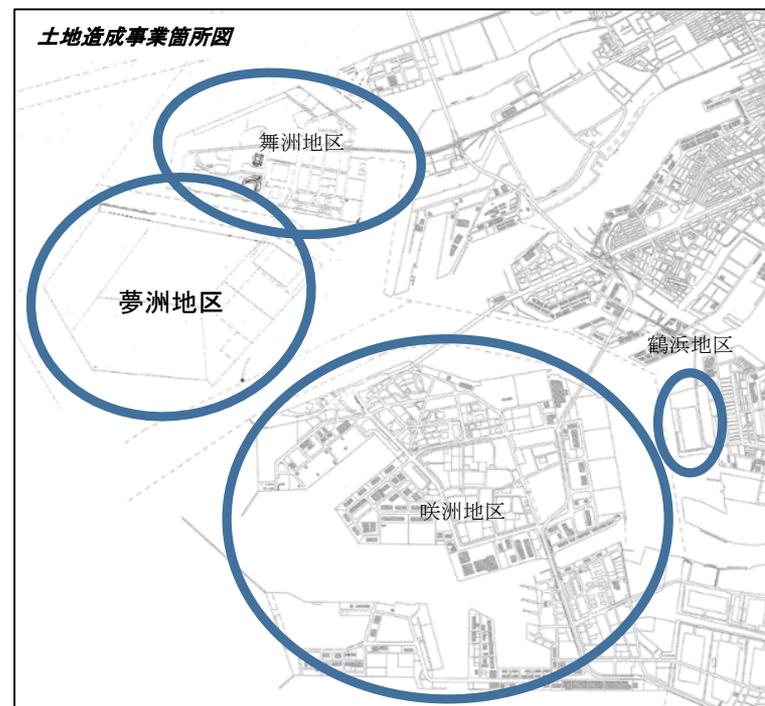


# 夢洲土地造成事業 実施状況説明資料

令和元年12月  
港湾局

## ◆大阪港の土地造成事業

- 大阪港では、夢洲地区、舞洲地区、咲洲地区ならびに鶴浜地区において、土地造成事業を実施してきている。
- 夢洲以外の3地区では、埋立を完了し、基盤整備やまちづくりを進めているところである。



## ◆ニーズの動向

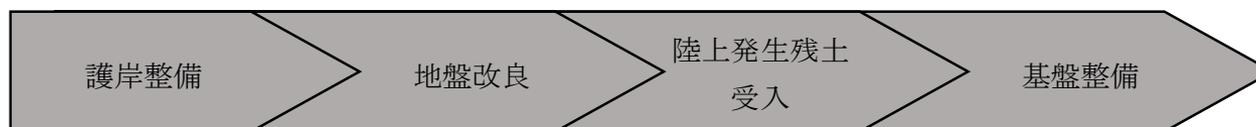
- 夢洲の東側(4区)では、平成14年から高規格コンテナターミナルが稼働しており、近畿2府4県で生産消費される海上コンテナ貨物の約5割を扱う※大阪港の国際物流機能の中心的役割を担っている。
- 夢洲の中央部(2区、3区)では、市内の公共工事の陸上発生残土等の処分場として活用してきている。
- 平成29年には、大阪府・関西経済界とともに「夢洲まちづくり構想」(平成29年8月)を策定し、国際物流機能の強化とともに、大阪の成長をけん引する新たな国際観光拠点の形成を図ることとした。
- また、平成30年11月には、2025年日本国際博覧会の夢洲での開催が決定した。

※平成30年度全国輸出入コンテナ貨物流動調査

## ◆事業手法及び事業の流れ

埋立事業とは、護岸の整備から、地盤改良、埋立、土地利用(ふ頭を除く)に必要な公共インフラ(道路・下水等)等の基盤整備にあたって必要な資金を、基本的には臨海債(国の認める起債)の発行により調達し、原則土地売却収入をもって償還を行っている。

### 事業の流れ



・埋立護岸、地盤改良、盛土(陸上発生残土等)及び整地工事等を行い、売却可能な土地に整備

・道路、水道等の土地利用に必要な基本インフラを整備

## ◆財源等

・港営事業会計(大阪港埋立事業)

## ○大阪の成長戦略(平成28年12月、平成30年3月(改訂)、P.21、P.42)

### (1) 世界的な創造都市、国際エンターテインメント都市の創出

★世界最高水準のエンターテインメント、MICEなど様々な機能を持つ「統合型リゾート(IR)」の夢洲への立地推進

### (2) 阪神港の国際ハブ化

★国際コンテナ戦略港湾の実現

(内航フィーダー網の充実や、インランドポート(内陸物流拠点)の整備等による広域からの集貨、臨海部への産業立地による創貨、港湾施設の機能強化、港湾経営主体の確立 等)

## ○夢洲まちづくり構想(平成29年8月、P.13)

### ・ 大阪の成長をけん引する新たな拠点の形成～新たな国際観光拠点～

- 将来的に大規模なまちづくりが可能な土地が確保でき、オーシャンフロントの非日常空間を体感できる立地ポテンシャルを活かし、訴求力の高い国際観光拠点を形成し、大阪経済の活性化に寄与する。
- 臨海部や市内、周辺都市のみならず西日本各地とのネットワークを形成し、拠点形成の効果を広く波及させ、西日本の活性化に寄与する。

### ・ 大阪の成長を支える既存拠点の充実～ 国際物流拠点 ～

- 国際コンテナ戦略港湾・大阪港の中心的機能を担う夢洲において、高規格コンテナターミナルと背後の産業、物流関連用地が一体的に機能する国際物流拠点の形成を図り、大阪関西の経済活動や市民生活を支える役割を果たしていく。

## ○平成31年度港湾局運営方針

- ・ 重点的に取り組む主な経営課題の一つとして「臨海地域の活性化」をあげ、成長企業や物流企業の集積に向けた効率的・効果的な企業誘致に取り組むとともに、夢洲におけるIR、万博などによる国際観光拠点の形成により、臨海地域の活性化を図ることとしている。

【経営課題1】港の国際競争力の強化

【経営課題2】災害に強く、安全で使いやすい港の実現

【経営課題3】臨海地域の活性化

2025年日本国際博覧会開催とIR開業をめざし、土地造成・インフラ整備を推進する。

# 事業費の推移

- ・ 港湾局運営方針にも位置付けられていることから、日本国際博覧会開催とIR開業をめざし、土地造成事業等を推進する。
- ・ 今後も重点的に取り組むことで、完了年度(令和28年度)での完成を目指す。

## ・ 港湾局(港営事業会計)決算等の推移(億円)

